

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774002899		
法人名	株式会社 楽		
事業所名	グループホームらく楽(1階)		
所在地	豊中市稲津町3-5-5		
自己評価作成日	平成25年3月22日	評価結果市町村受理日	平成25年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年4月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員の健康調査月報を作成し、健康管理を行っている。 ・安全衛生対策の一環とし毎日職員の腰痛体操を実施している。又職員のメンタル面でのホローを随時行っている。 ・病院に管理者が同行し施設の車で送迎を行っている。 ・災害時の職員緊急連絡網を作成し、家の近い職員から駆けつけられるよう徹底している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>初代表者が一人で親の介護に苦労していた時、近所の人達や介護職の人に助けられ・励まされたことに感謝し、その恩返しの意味で当ホームを立ち上げた。開設に当たっては稲津地区の自治会長の全面的な協力があり、その後も周囲に働きかけてくれ地域全体のバックアップに繋がっている。それに対し、管理者・職員が一体となって地区活動に積極的に参加し「地域の一員である」と認識されるまでになっている。利用者の立場になって一人一人の意思・人格を尊重し「愛し、まもり、地域にも愛され、役立つ」ことを理念に掲げ、明るく、楽しく毎日のケアの実践に努めている。利用者は閑静な住宅街という恵まれた環境の中で近くの公園、地藏さん、寺、神社、公民館、図書館等へ散歩や地区主催の行事に参加している。職員は優しく・温かい思いやりをもって見守り、元気に明るくその人らしい生活が続くよう支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアの随所に理念を掲示し、日々のケアに活かせるよう工夫している。朝のミーティングには施設長が理念に沿った訓話をしている。	事業所独自の理念を作り、玄関、事務所やフロアの随所に掲示して、管理者と職員が共有している。管理者が毎日ミーティング時に理念に沿った訓話をし、職員は日々のケアに活かすよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館での手芸教室、保育園との交流、自治会の清掃活動、祭りや寺で開催される落語会にも 出向き楽しんでいる。	町会長や民生委員等の協力で地域とは緊密な交流が図れている。公民館での手芸教室、図書館での映画会、寺での落語会、地藏盆、夏・秋祭等地域活動に積極的に参加して、楽しみながら地域の人と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症の人の生活を話し、理解や賛同を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ごとにテーマを変え、出席者からの意見を参考にケアに活かしている。	市職員、地域包括支援センター職員、介護相談員、利用者代表等が出席の下、2カ月毎に開催している。毎回、事前にテーマを決め、双方向の意見交換が行われ運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	急変時の認知症に対する病院の受入れが困難である。今後医師会との連携を取ってほしいと高齢施策課に相談している。入居者の入院時の病状の報告や状況の説明をし、入退院の連絡をそのつど行なっている。	生活福祉課や高齢施策課の担当窓口に向き、種々相談している。また介護事業所連絡会や地域福祉ネットワーク会議で得た情報を運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的かつタイムリーな勉強と研修を行い、施錠に関しても日中は行わず、自由な家庭的な場を提供している。	外部及び社内研修で虐待防止関連法について理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に努めている。日中は玄関も施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加、社内勉強会を定期的に計画し管理者またはスタッフから問題提議を行い話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や講習会に参加し、後見人制度・日常生活自立支援事業は活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は詳細な部分まで読んで説明し、質問を聞きながら解り易く、納得されるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に要望を聞き、より迅速な対応をしている。それぞれの意見はケアに反映されるよう努めている。	家族の訪問時に介護経過記録を見てもらい、ホームでの生活状況や健康状態を説明し、意見・要望を聞いている。来れない家族には「らく楽便り」の他月毎の経過記録の纏めにコメントを添えて送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議では率直な意見を管理者が聞き、可能な限り実行し、代表者に意見が反映されるよう努めている。	管理者と職員の関係は大変風通しが良く、災害時に備えた役割札や行事の役割分担等の職員提案を運営に活かしている。個別面談も随時行い職員の気配で悩みなどを察知したら相談に乗り、心のケアにも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表の作成と実施で向上心が持てる配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に応じ、研修させている。研修内容を全職員で共有できるように研修報告書の作成で再度学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での交流と研修会などでの交流を図って、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の一カ月はマンツーマンの時間を多く取り、全職員が情報共有できる様、用紙を作り書き込んで本人の要望、不安をプランに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より家族との面談、会話を頻回に行っている。入所後も細かいことに電話し、コミュニケーションを取るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望の連絡後、すぐ状況、状態の相談を受け、本人や家族に合った他のサービスの提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	女性には家事等昔されていたことについてスタッフが教えてもらったり、暮らしていた場所についてうかがい、時間を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りを送ったり、面会時には日頃の様子や写真をお見せしている。介護記録の開示とサービスに対する意向を必ず伺っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との食事、宗教などホームの車を使用し、これまでの関係の維持を積極的に支援している。	趣味や宗教を通じての友人との外出がある。継続的にお参りをしてくれるお坊さん等の訪問がある。希望により馴染みの美容院、散髪屋、喫茶店、寺、神社、教会等にホームの車で案内して、今までの関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩、地域の手芸教室などの外出時は手を繋いだり、利用者同士の触れ合い、関わりを深めるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も入院先に職員が見舞い行き、お別れには全職員が参列し家族の相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に面談に出かけ本人や家族の意向を把握し、アセスメントシートを作成し全職員が把握している。困難な場合は包括支援センターに相談している。	入居前に本人・家族から聞き取った意向とその後聞き取りして追加したアセスメントシートや経過記録を基に、皆で共有している。困難な場合は地域包括支援センターの相談員に協力を仰いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から生活環境やこれまでの経過を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体、精神の両方の視点から日々の変化を一日の流れの中で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の意向とともに、カンファレンス、ケアチェックなどを行い、見直しを随時行いながら現状に合った介護が出来るようにしている。	毎月、モニタリングとケアカンファレンスを行い、利用者・家族の意向と医師・看護師の意見を取り入れて3ヶ月毎に計画の見直しをしている。状態の変化があった場合はその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プラン作成後、それぞれの利用者についての変化や気づきに対し意見交換や工夫をケアチェックなど個別に記録し、見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに柔軟な対応ができるよう、医療体制や施設の紹介を家族・本人の希望を組み込んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日曜日の映画鑑賞、ボランティアによる行事参加公民館での手芸参加、消防署協力の訓練を受け、安全面でも配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	雇い付けの医院・専門医への受診時は施設の子でケアマネジャーが同行し普段の様子を報告している。	利用者・家族が希望する医療機関で受診出来るよう管理者、ケアマネジャーは家族に代り通院支援をしている。受診結果は必ず記録して家族に電話で報告をしている。協力医と24時間オンコール体制をとり対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時にはケアマネジャーと担当の職員が同席し、記録等を提出し、適切な受診が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの提供で生活状況を細かく伝え、退院時にケアマネジャーがDrに病状説明を聞き、生活面についての指示を受け、全職員が共有できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に施設の指針を本人家族に説明し、いつでも状況によつて変更できるようにしている病状の悪化時には家族に主治医より説明を行い、家族の意向に添えるように支援を行っている。	入居時に「重度化・終末期ケアに対する指針」を説明し同意を得ている。事業所としての対応可能範囲である常時、医療が必要でない状態であれば、主治医と家族、職員で話し合い、意向に添えるよう支援している。ホームの思いで過去に看取りをした経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急救命講習を受け、連絡網の徹底を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日、通報、初期消火などの役割を記した札を身につけ迅速な対応ができるようにしている。備蓄品と防火用水を備え、年2回の避難訓練実施時に、地域の方々に協力を呼び掛けている。	年2回の消防署協力の訓練と自主訓練の実施時に地域の方の参加協力も得ている。スプリンクラー、自動火災通報装置、消火器、備蓄の準備、避難誘導を含めた職員役割を記した札を身につけ、常に意識付けている。	運営推進会議を活用し地域と事業所の協力体制は構築できているが、日頃から家具の固定や落下防止等、各種災害ごとに繰り返す訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った声のトーンに配慮している。プライバシーに対し指導を徹底する事とともに研修にも参加している。	本人の気持ちを尊重し無理強いする事なく、その人にあった生活を大切に、ゆっくりした声かけで対応している。職員は月の目標を掲げ、また振りかえり、全体会議で意見を出し合っている。書類は書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に合わせた馴染みの声掛けの工夫を行い、思いや希望が表せるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を優先し、個々に合ったペースに合わせたケアの取り組みを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院の同行、整容・服選びなどアドバイスしながら楽しめるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合った配膳、下膳の声掛けやお盆拭きなどをしてもらい、同じテーブルで職員が食事を共にすることで会話が弾むようにしている。	昼食、夕食は調理の得意な職員が献立、調理を行い、一部の利用者が出来る範囲で手伝っている。食事はミキサー食、きざみ食、とろみ食、減塩食と利用者の状態を見て食事を出している。職員も一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は好みの物や温度で提供し、医師の指示の分量が摂取できるように支援している。食事は残存能力にあつた時間で食事が楽しめるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日就寝後義歯を洗浄剤につけている。週1回歯科医師による口腔内チェックを受けている。全介助の方に対して職員により毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人別に排泄パターンを把握し、夜間はオムツ使用の方も昼はトイレで排泄できるように介助に工夫を行っている。	「個人チェック表」で個々の排泄パターンを把握して「自然排泄」を目標に掲げ、殆どどの利用者が昼間は布パンツの生活をし、トイレで排泄するよう支援している。トイレ誘導する事により自立した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩または歩行を毎日促し、食物繊維の多い食品や腹部マッサージなどをし、自然に排泄できるケアをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間や順番は本人の希望や体調に応じ、週3回を基本に、しょうぶ湯、ゆず湯など季節に応じた楽しみ方ができるように入浴に工夫を行っている。	基本的に週3回の入浴支援をしている。個々の好みの湯温で、季節によってユズ湯、菖蒲湯、入浴剤を利用している。入浴日以外は足浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に合わせた就寝時間の促しや寝具の調節をし、冬に湯たんぽを入れたり、乾燥しない様タオルを濡らし居室にかけて安眠できる様工夫を行っている。昼食後個別で休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書をファイルにし、全職員が共有できるようにしている。変更時には、申し送りノートや介護日誌等に記載し徹底している。副作用の症状時には、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や能力に合った役割、カレンダーの日めくり、花の水やり、体操の指導者等で張り合いある喜びに繋げるよう支援している。馴染みの喫茶店に出かけて馴染みの方と会話できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院、友人との外食、宗教仲間と宗教の会合等に参加できるように支援している。又施設の車で公園に季節の花見に出かけている。	天気の良い日にはホーム近くの住吉神社やお寺、公園、図書館、天竺川沿いを散歩し四季折々の季節感を味わい、外気に触れる支援をしている。近くには市場や飲食店も多く、時には家族、友人、知人と食事に行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ本人が管理している。買い物には職員が同行し、買い物先の先導を行ったり、アドバイスを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できるようにしている。手紙も宛名は職員が書き、家族や友人との交流が持てるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の置物や花を活け、壁には季節感が分かるように工夫された作品を利用者とともに作り、月ごとに変えている。浴室は季節にあった温度の調整を行っている。	玄関、廊下、リビングなどの共有空間は明るくゆったりして、利用者の誕生日や行事写真、作品などや季節の花、植物が置かれて季節感を感じる場となっている。トイレは車椅子介助がしやすい広さで、臭いがなく清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で新聞を読めるスペースを設けている。ソファで少数がくつろげるスペースも作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具は愛用したものを使用し、食器も使い慣れたものを使用してもらっている。仏壇や小物も見慣れたものを置くことで安心できる環境を作っている。	各居室にロッカー、ナースコール、床暖房、冷暖房の設置をしている。利用者は馴染みのベッド、寝具、仏壇、家族写真、テレビや公民館活動で作ったパッチワークの作品、書道などを飾り心休まる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を活かせるように入浴時補助具を使用し入浴ができるように工夫をしている。、居室に表札をつける、風呂場にのれんをつけるなど自立できるよう工夫している。		